

# Leader's TOPICS

## 地球環境の現状と将来について思うこと



副代表理事 廃棄物部会長 石井 榮

今年の夏は、前半が活発な梅雨前線などで湿った空気の影響を受け易かったため、降水量が多く、そのため夏の日照時間が少なくなり、農作物の不作と野菜の高騰が顕著でした。特に、通常は曲がらずに真すぐ育つ胡瓜の形がU字状に曲がっている例（奇形果）がかなり多くみられるなどの影響も報道され、現在の動植物と自然現象との調和を象徴するものと再認識させられました。その一方で夏の中盤から後半になると大雨や異常な猛暑と相次ぐ巨大台風の襲来により、インフラ全般に甚大な被害を受けた地域も相当数あり、<sup>へきえき</sup>僻易した方も多いのではないのでしょうか？

さらに、近年水産資源の枯渇も喫緊の課題として取りざたされています。それは、乱獲と同時に、世界の人口増加と水産資源への依存度の高まりのみならず、かつてないほどの乱獲とともに海水温の上昇による回遊ルートの変化等も大きな要因を占めています。

これらのことは、NASAのジェームズ・ハンセン博士の報告書に記載の「地球の温暖化は、今後数年間、桁外れの猛暑などの異常気象を頻繁に引き起こす」という警告を始めとする多くの研究論文や警句が、単なる机上の空論ではないことを私たちに再認識させる結果となったのではないのでしょうか？

このように、地球上におけるすべての事象は、微妙なバランスの上で成り立っていることは周知の通りであり、地球温暖化の現象は海水温度さらに大気の上昇をもたらし、地球上に人為的に区分されている様々な地域は、決してそこに居住する民族や国が単独で孤立しているわけではなく、一つの生命体のごとく相互に密接な連関と影響力を及ぼしあっていることをいみじくも物語っているのではないのでしょうか？

さらに、地球には40億年という長い年月をかけて生成し貯めこんだ膨大な資源がありますが、それらは決して無尽蔵ではあり得ません。人間が、今のように能（ノ）天氣に資源を濫費することは、資源の枯渇だけではなく環境破壊にも直結することであり、最早座視できないことは自明であり、16歳の少女グレタ・トゥーンベリさんが国連において、激しい口調で訴える通り、一刻の猶予もなく現在の地球市民が一丸となって行動を起こさない限り、地球に未来はないでしょう。

地球全体がタッシリ・ナジェール（アルジュリア砂漠にある石器時代の壁画洞窟）の二の舞にならないために、私たち一人ひとりの一層の奮起が求められる<sup>ゆえん</sup>所以であると思います。